

**製品名: CREB3L2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09379**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	58kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CREB3L2
別名	CREB3L2; BBF2H7; Cyclic AMP-responsive element-binding protein 3-like protein 2; cAMP-responsive element-binding protein 3-like protein 2; BBF2 human homolog on chromosome 7
遺伝子 ID	64764.0
SwissProt ID	Q70SY1
免疫原	抗血清はヒト CREB3L2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 269-318

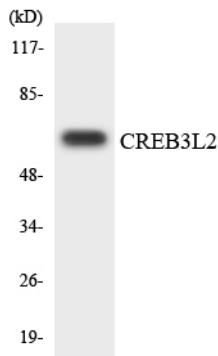
**背景**

この遺伝子は、オアシス bZIP 転写因子ファミリーのメンバーをコードしています。このファミリーのメンバーは二量体形成が可能ですが、ホモ二量体のみを形成します。コードされているタンパク質は転写活性化因子です。一部の腫瘍では、7 番染色体上のこの遺伝子と 16 番染色体上の肉腫融合遺伝子との間の転座が認められます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011 年 12 月]疾患: 低悪性度線維粘性肉腫 (LGFMS) において、CREB3L2 に関連する染色体転座が認められます。転座 t(7;16)(q33;p11)と FUS が認められます。機能: 小胞体ストレス後期に、折り畳まれていないタンパク質応答標的遺伝子を活性化することにより作用する転写活性化因子です。損傷を受けたニューロンにおける折り畳まれていないタンパク質の蓄積を防ぐ役割を果たす可能性があります。in vitro では、cAMP 応答配列 (CRE) に結合し、CRE を介して転写を活性化する。PTM: 制御性膜内タンパク質分解 (RIP) によって制御される。ER ストレスに続いて、細胞質転写因子ドメインを含む断片がタンパク質分解によって遊離する。この切断は、サイト 1 プロテアーゼとサイト 2 プロテアーゼ (PS1 と PS2) によって順次行われると考えられる。類似性: bZIP ファミリーに属する。類似性: bZIP ファミリーに属する。ATF サブファミリー。類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。細胞内局在: 小胞体ストレス下では、切断された N 末端細胞質ドメインが核に移行する。サブユニット: 二量体として DNA に結合する。組織特異性: 広く発現しており、胎盤、肺、脾臓、腸で最も高く、心臓、脳、骨格筋、胸腺、結腸、白血球で最も低い。胎児組織では、脳と心臓で最も弱い発現が検出される。

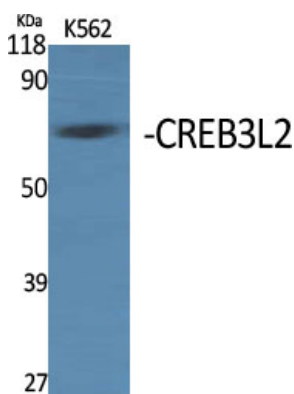
## 研究分野

メラニン生成、ハンチントン病、前立腺がん

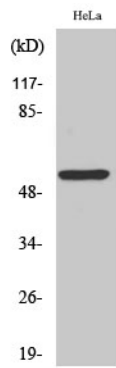
## 画像データ



CREB3L2 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



CREB3L2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



CREB3L2 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析